

松戸ロータリークラブ

【2010-11年度国際ロータリーテーマ】

地域を育み、大陸をつなぐ

Building Communities,
Bridging Continents

[第2647回例会]

会 報

No.2646

2010年9月15日 発行

●四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- ① 真実か どうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるか どうか

●THE 4-WAY TEST

Of the things we think, say or do

- ① Is it the TRUTH?
- ② Is it FAIR to all concerned?
- ③ Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
- ④ Will it be BENEFICIAL to all concerned?



地域を育み、大陸をつなぐ

本日のプログラム

2010年9月15日(水)

卓 話

「環境について」

小林孝数 会員

次回のプログラム

2010年9月22日(水)

休 会

「定款第6条第1節により」

- 例会日 毎週水曜 12:30～1:30
- 例会場 伊勢丹松戸店本館11Fバンケットルーム
TEL: 047-364-1111
- 事務所 松戸市松戸1281 ユニティビル2F
TEL: 047-366-2266
FAX: 047-361-2255
U R L : matsudo-rc.com
E-mail : info@matsudo-rc.com

- 会 長 伊原 清良
- 会長エクト 常盤 映彦
- 副 会 長 加藤 栄
- 幹 事 松田 茂一
- 会 計 加瀬 仁
- 会報委員 松本 幸夫 申 澈権 太田原慎一
- 山田 達郎 澤田 正宏 土肥伸一郎
- 加瀬 仁 車田 善教 浅井 利明
- 三国 大吾

「ロータリーに
入会して」

車田善教 会員



ただいまご紹介に預かりました車田でございます。6月23日にこの歴史と伝統のある松戸ロータリークラブに入会させていただきました。はや2ヶ月となります。この間、皆様方にロータリークラブの

目的や活動内容等、種々ご指導頂きまして、まことにありがとうございます。まだまだ未熟ではございますが、このロータリークラブは、一個人ではとても入会できるような会ではございませんので、皆様方とのふれあいの中から、数多くのことを学び取ってまいりたいと思います。今後とも是非ご指導のほど、よろしく願いいたします。

さて、本日の卓話でございますが、銀行員生活の中で、今までに印象に残ったことを話そうか何を話そうかいろいろ悩みましたが、私のような若輩ものが、経営論を振りかざしたり、マクロ経済とはと言った評論家的なことを言ってもつまらないと思いましたので、せっかくロータリーに入会したので、変わった話をしようかと勝手に思いまして、まずは、最初に簡単な自己紹介をお話させて頂き、次に、俗っぽい話になりますが、皆さんがあまり聞く機会のないと思われる、海外関係の話をしたほうがいいかと思い、前場所の国際業務部に勤務していた時にインドに赴任経験のある部下が話していて興味深かった、「インド人と信頼関係を築くには」という話をご紹介させて頂き、最後に俗っぽい話ばかりではなく、ちょっと高尚なお話をした方が良くかと考え、三菱グループに語り継がれている経営理念である三菱三綱領を紹介させて頂きます。私見に満ちた話かつ「ロータリーに入会して」と言う題とはまったく関係ないと思われる方も多々いらっしゃるかとも思いますが、何卒お許しください。

まずは自己紹介でございます。わたくしは昭和41年2月に東京都足立区の舎人というところで生まれ、現在は、埼玉県の川口市に4人家族で住んでいます。生まれた足立区の舎人は、今でこそ日

暮里舎人ライナーが開通し、便利になりましたが、私が生まれたころは、東京のチベットと呼ばれるくらい、辺鄙なところで、主要交通機関は、自転車。まわりはれんげ畑しかなく、雨が降るとよく用水路が氾濫し、雷魚をとっていた印象があります。昔は、なんでこんなところに家を買ったのかと不満を言っていましたが、今となっては、なつかしい思い出です。中学・高校は野球をやっておりまして、今は肩を壊して見る影もありませんが、甲子園を目指して、日々ツライ練習をしておりました。ですから、夏になるとあのツライ練習を思い出すので、今年のような特に暑い夏は昔の悪夢が蘇ってきて、あまりいい気分ではありません。大学は、日本大学に進学しましたが、高校までの厳格な生活の反動か、ふらふらしておりました。ただし、3ヶ月アメリカを一人旅したり、東京ドームの場内整理のバイトをしたり、毎年アメリカ横断ウルトラクイズに参加し、1回だけ予選を突破し、成田空港まで勝ち残ったりと、自由気ままな生活をしておりましたので、親は嫌だったかと思いますが、自分では充実した大学生活であったと思っております。

大学卒業後、平成元年に旧三菱銀行の志村支店に入行しました。その後、関西の支店の開設や業務企画部、総務部、国際業務部といった本部、池袋、五反田といった現場を経験し、松戸が9場所目となります。入行して21年となりますので、約2年ちょっとで転勤している計算になります。

せっかく仕事にも慣れ、お客様と本当の意味で親しくなった頃に転勤というのが実情でございます。これはお客様にもご迷惑をお掛けすることも多いし、私にとっても大変残念なことではございますが、その分、沢山のお客様・行員とふれあい、勉強できる機会も増え、また、一日一日を大切に、日々を過ごすことにも繋がりますので、それはそれで財産になっていると思っております。若輩ものでございますが、ご指導よろしく願いいたします。

次に、あまりなじみのない話で皆さんの参考になったらという事で、「インド人と信頼関係を築くには？」という話をご紹介させて頂きます。

まずインドの人口ですが、最新の国連“世界人口白書2009”では、世界人口68億人に対し、中国13億人、インド12億人となっており、世界で第2位の人口大国になっており、世界の人口の18%を占めるインドは、近年プレゼンスが高まってきております。

その割には、皆さんのインド人の人柄に対するイメージ・知識は中国人と比較するとあまりに乏しいのではないのでしょうか？恥ずかしい話ですが、わたしも正直、インド？カレー？くらいしか印象がありませんでした。

話は脱線しますが、インドといえばカレーを先ず思い浮かべる人が多いと思います。確かに、インドではカレー料理が多いのですが、日本のカレーライスでは無く、醤油がカレーに変わったようなものです。要は、調味料の一種で、とにかくカレー味には事欠きません。ちなみに、ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、「中村屋のカレー」は、1915年に日本に亡命したインド独立の闘志「R. B. ボース」が当時パン屋を営んでいた中村屋に伝えたもので、これが、現在のインドカレーのルーツとなっています。

という訳で、今回は、以前の部下の赴任経験をお話することで、少しでもインドの方々を身近に感じて頂ければと思います。

まず本質を理解して頂くために、インド人の物の考え方についてお話します。そもそも、日本人とインド人とは物事の考え方に相当な違いがあるそうです。私の部下がインド駐在当時、ローカルスタッフ（現地行員）120人を抱える中、議論が噛合わないことが多々あったそうです。それは、初めは英語力の問題かと思ったそうですが、そもそも物事の考え方に相当な違いがあることに気がついたそうです。その時に会った本が「インド人の論理学（中公新書）」だそうです。その本によると、インド人は、日本人に馴染みのある「演繹法（process-Oriented）」ではなく、「帰納法（goal-oriented）」で物事を展開していくそうです。これは、交渉の場でもインド人が自然と使う考え方で、日本人がよく相手のペースに抱き込まれる原因にもなるものだそうです。

例えば、部下がミスをした局面を思い出してください。日本では、こちらが順を追って間違いに至った点を説明して、部下に話せば、ミスをした本人もすいませんと間違いを認めますが、インド人には、通用しない場合が多く、相手は、そもそも「マニュアル」が悪い。「なぜならば・・・」と論理展開が始まるそうです。

気がついてみると、こちらが間違っていたのではと錯覚する位、流暢、というかディベート慣れしていることに驚かされるようです。巧みに論点をずらし、最後は自分の領域にもっていき力。流石インド人と言いたくなるようです。

私の部下は負けず嫌いだっただけで、本邦から派遣された者の一人として、容易には引き下がれないと言う気概をもって、真正面から向き合い、外堀を確り埋め、議論を展開していったようで、議論好きなインドの国柄とは言え、ここまでくると一目置かれ、お互いの信頼感に繋がったようです。よく外国人に対して「あそこは民度の高い国だ」、「親日な国で勤勉」等々批評される方がいますが、本当にその国の人を理解するには一朝一夕ではいきません。あらゆる面で深い信頼関係が必要です。更に深く本質を理解する為に、彼は、冠婚葬祭に参加したそうです。そのセレモニーは、驚くべきものであり、あっけにとられるものだったそうです。

具体的にお話しますと、地域差はあり、本件は北部デリーの慣習だそうですが、まず花婿（はなむこ）は、白馬にのって結婚式会場へむかい、次にこの白馬の周りに親戚縁者や、たまたま居合わせた人も混ざり、ぐだぐだで前へ進むそうです。ただし、集合が夜の8時だったそうですが、定刻になっても、その時間帯には誰一人現われず、9時を超えても集まる気配すら無し。10時になり、ようやく集まり始め、その間、花嫁は白馬に乗った花婿（はなむこ）をずっと待ち続けるそうです。ようやく白馬がたどり着くと、何の合図も無くセレモニーが始まり、あわてて部下も花束を手渡すことになったそうです。日本人にはちょっと理解できないセレモニーですよ。

要は、時間が必要以上にかかり、また、物事の始まりと終わりが分かりづらく、時間に厳格な日本人とは対極にあると言ってよい国の一つだそうです。ただ怖いのは、「参加しているかどうか見られている」ことだそうです。

以前、ある家電メーカーの方が仰っていた話ですが、なぜ韓国メーカーがインドで受け入れられたか。これは彼らが商品開発から製造、販売まで真にインドに根ざした活動を行っている事実。その事実を消費者もしっかりと見ていたから受け入れられたということでした。品定めは厳しいですが、単に表面的に商品が良い悪いとの判断のみならず、インド人として愛着、共感性が得られるかという点も重要だそうです。

また、インドでは「金の切れ目は縁の切れ目」にはならないそうです。インドの方は最終的にはお金ではなく、ややしい過ぎの側面もありますが、信頼関係を優先するよう感じます。例えば、ビジネスなどの交渉の中で、お金の面でかなりギリ

ギリとやり合った後、インドの方では、最後に「お前が言うなら」と旗を降ろし主張を取り下げる局面で、“にやっと笑う”瞬間があるそうです。ここが仏教発祥の地であるインド人のメンタリティーで、日本人に合い通じる点と考えています。困った人を助ける慈愛の精神とか、家族愛の強さといった点は、日本の古き良き時代に近いものがあるのかなと思ったりもしました。

そこで纏めですが、

インド人のメンタリティーは日本人に近い。表面的にあしらわないのが重要で、社内でのレクレーションなんかはとくに重要となります。

但し、時間の観念は全く違い、「time management」が経営そのもの。よって人任せにするのはあまりおすすめしません。

お金の面だけでは無く、向上心をかきたてる仕組み作りが重要。よって日系企業で働くロイヤリティーを上手く、くすぐるのがやる気を出して頂くポイント。

等々が肝要かと思われまます。

皆さんも将来インド人の従業員をやとう日がくるかもしれませんので、その際はわたくしのお話を思い出して、参考にして頂ければ幸いです。

最後になりますが、三菱グループの経営理念について若干お話をさせていただきます。

三菱には、130年の歴史の中で引き継がれてきた経営の根本理念があり、それは第4代社長岩崎小波により、記された三菱三綱領と呼ばれ、三菱グループの企業活動の経営理念となっております。

それは、 所期奉公（しょきほうこう）
 処事公明（しよじこうめい）
 立業貿易（りつぎょうぼうえき）

の3つです。

おのおのを説明させていただきますと、

まず1つ目の所期奉公（しょきほうこう）ですが、意味は、期するところは、社会への貢献ということで、事業を通じ、物心共に豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえのない地球環境の維持にも貢献するという事で、事業経営は国家的事業観に立つべきだ、との信念を小彌太社長は持っており、大正9年の三菱鉱業株式会社臨時場所長会議におけるスピーチにおいて、「...生産活動は国の最も重要な活動の一つである。その活動に携わっているわれわれは、国から極めて重要な任務を任されているとも言える。したがって、事業の究極の目的は国のためにするという事で

あって、その目的達成のためにベストをつくすことがわれわれの理想でなくてはならない」と話しております。この精神を四文字で表したのが「所期奉公（しょきほうこう）」です。事業活動の究極の目的は社会への貢献だということです。

次に2つ目の処事公明（しよじこうめい）ですが、意味は、フェアプレーに徹するという事で、公明正大で品格のある行動を旨とし、活動の公開性、透明性を堅持ということでした。大正9年の三菱商事株式会社場所長会議におけるスピーチにおいて、事業経営においては公明正大であることを心がけるよう小彌太社長は一貫して説いてきました。「...競争に熱中し、数字を上げるために、手段や方法を選ばないというようなことが...あってはならない。...われわれは常に社会正義とは何かということ念頭に行動しなければならない。不正には正義を、権謀には正直をもって、われわれは行動すべきである...」「処事公明（しよじこうめい）。何事であれフェアプレーに徹するという事です。

3つ目は、立業貿易（りつぎょうぼうえき）です。意味は、グローバルな視野でということ、全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図るということでした。昭和16年の三菱協議会におけるスピーチにおいて、小彌太社長は太平洋戦争勃発の2日後に三菱の幹部たちにこう述べたそうです。「...これまでわが三菱はさまざまな分野で英国や米国のパートナーと協力してきた。それが今や不幸にして敵と味方に引き裂かれてしまったが、彼らの身辺と権益を守ることは日本人の情義であり責務である。...いずれの日にか再び彼らと協力しあって世界の平和や人類の福祉に貢献する時が来るだろう」「立業貿易（りつぎょうぼうえき）」の意味は、文字通りには「対外貿易を主たる業務とする」ことですが、小彌太社長が言いたかったことは、グローバルな視野に立つことの重要性だそうです。

以上の精神は個人的には、ロータリークラブの精神と合致するのではないかと考えております。今までのような脈略のない話が、皆さんの参考やためになるかどうか分かりませんが、これからもあまり普段では聞けないような話をお話したりして、ロータリーの活動に貢献していきたいと考えております。

以上で簡単ではございますが、わたくしの卓話を終わらせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

会 長 挨拶



伊原清良 会長

残暑、大変厳しい中、例会にご出席くださり有難うございます。

さて先週の理事会で、活動計画書の細則変更について、

織田直前幹事より別紙の変更部分を 削除するか。 追認するか。を指摘されました。クラブ研修委員会と環境委員会と二つの新しい委員会を立ち上げるに際して、理事会のご承認は頂きました。それについての細則変更については例会での承認が必要だった訳です。これは会長の私が勇み足でありました。改正手続きとして10日前に改正案を予告しなければならぬとなっています。9月29日の例会での、ご審議をお願いいたします。

次に小川一国際奉仕委員長が、アフリカ・ケニアの病院への支援に対して、寄付を募ります。RIのテーマが「大陸をつなぐ」ですから、クラブより5万円の支援を理事会決定しています。私にとって小川会員は屋久島・千尋滝と一緒に見た命の恩人です。松田幹事にとっての小川会員はゴルフのニギリで勝っています。それぞれに寄付します。

先週の金曜日に第12分区の会長・幹事会がありました。ロータリー情報研究会が地区主催により、10月15日・金曜・PM2時・松戸商工会議所で開催されます。テーマは「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」です。松戸の他のロータリークラブは当日に例会日変更を模索しているようです。松戸ロータリークラブは新入会員が多く、卓話をこなしていかななくてはなりません。分区による同様の会合が来年2月にインターシティ・ミーティングがあります。これは分区の得居ガバナー補佐が主催です。ですから次年度のインターシティ・ミーティングは松戸ロータリークラブ・安井ガバナー補佐が主催することになります。

それと昨年の松本委員長と同様に、地区のライラの実行委員として松戸ロータリークラブとして川並芳純会員を推薦しました。

神守源一郎パストガバナーは、『ロータリーの魂を洗い直せ!』と提唱されたそうであります。

イギリスでは『ロータリーは、人間の魂のあり方の問題である』と言われていています。ロータリーは、本来、心の問題を重視する、優れた精神的な活動であります。二宮尊徳翁が、『田畑を耕す前に、先ず心の田畑を耕せ』と言ったように、ロータリアンは、諸々の実践活動をする前に、先ず、自らの心を洗って、己の足らざるところを **他のロータリアンに 学ぶ姿勢を持つこと** が大切であるとおっしゃっています。

本日の卓話は、三菱東京UFJ松戸支社長の車田善教会員の「ロータリーに入会して」であります。東京ロータリークラブのホームページを見ると、「ロータリーに入会して」ではなく、「イニシエーション・スピーチ」となっています。イニシエーションと聞くと、なにやら、オウム真理教や秘密の暗い洞穴で血なまぐさい、秘密結社・フリーメイソンの匂いがします。イニシエーションの意味は、ある集団や社会で、正式な成員として承認されること。また、その手続きや儀式。成人式・入社式はその一形態。東京ロータリークラブの現会長は茂木友三郎さんで、キックマンの会長です。最近の事業としては、カンボジアの対人地雷の撤去が目にとりました。総額1億5,000万円のうち5,300万円を東京ロータリークラブより拠出しています。カンボジア全土の地雷撤去は不可能なのでしょうが、地雷が撤去されたクリアランドで安心して生活できる現地の人々の喜びはいかばかりかと思われます。

三菱財閥には、金曜会と言う三菱グループ首脳の会合があるそうです。首脳の中での別格の御三家は、三菱重工、三菱銀行、三菱商事です。私が若い頃、丸の内の三菱商事別館の地下駐車場に行くと、他ではほとんど見ることが無い、三菱系の高級自動車デポネアが5台もありました。グループ意識のすごさを垣間見た感じでした。

雪和食品は三菱商事の子会社である、菱食のプライベートブランドのパン粉を製造しています。主軸商品であります。本日も将来の三菱銀行の頭取になり、金曜会のメンバーになる可能性を秘め

た車田会員のお話を、**学ぶ姿勢を持って**お聞きしたいと思います。

雑感 銀行との付き合い方は様々だと思います。私の父が30歳くらいの頃、金のない青年実業家として三菱銀行の松戸支店長に事業目論見書などを提出しながら、口角泡を飛ばしつつ説明して「ようやく借入申込書を渡された時には、思わず涙が出た。」という話があります。

一方、お金に余裕のあるロータリアンの中には、「伊原君、お金を借りる時は、支店長を会社に呼び出すんだぞ。」という話があります。両極端ですがどちらもロータリーだからこそ聞ける話であります。三菱商事の広報部より出版された、「時差は金なり」という本を若い頃にむさぼり読んだ記憶があります。三菱商事マンたちは地球のどこかで誰かが必ず起きている。24時間いつでも仕事している。なんて仕事は面白いんだ。読みながらウキウキ・ワクワクした感じが致しました。

幹事報告



松田茂一 幹事

1. クラブ内、会議・連絡事項等の案内
本日例会終了後クラブ協議会があります。
9月22日(水)は定款第6条第1節により休会となります。

2. 外部からの会議・連絡事項等の案内
10月15日(金)情報研究会への出席要請がきております。
5クラブ対抗ゴルフ大会の日程が平成23年5月16日(月)に決まりました。場所は未定です。
3. 他クラブ会報・その他
特にございません。
4. 例会変更の連絡
特にございません。
5. その他報告
特にございません。

例会報告

[例会写真]



小川会員



杉渕(裕)会員

[出席報告]

会員53名	義務会員44名	免除会員 9名
出席41名	義務会員35名	免除会員 6名
仮欠12名	義務会員 9名	免除会員 3名

[欠席者]

島村 善行君	大川 吉美君	森田 雅久君
橋口 和幸君	平松 徹君	田原 晨暁君
土肥伸一郎君	加瀬 仁君	飛田 勤君

本日出席率 82.0%

ニコニコBOX

ニコニコBOX	当日¥ 0	累計¥300,000
財 団BOX	当日¥ 3,532	累計¥ 42,103

文責 / 澤田

